Fukuoka Asian Art Musuem Art Exchange Programs Annual Report 06-07

平成18年度 福岡アジア美術館交流事業報告書

福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

福岡アジア美術館交流事業

□美術交流事業

本事業は、アジア各地で活躍する美術作家や研究者・学芸員等を一定期間招聘し、様々な美術交流事業を行うことで、市民がアジアの美術・文化に対する興味を高め、理解を深める一助となることを目指すとともに、アジア美術を取り巻く状況の活性化を目的にしている。

□美術教育交流事業

本事業は、アジアの国・地域から美術教師や生徒を招聘し、本市の美術教師や生徒とともに展覧会の企画・展示やワークショップ等行うことで、文化・国際交流をはかることを目的にしている。また、教育関係者とのディスカッションの場を提供し、美術教育の現状等についての相互の理解を深める。

平成18年度福岡アジア美術館交流事業報告

美術交流事業は、パキスタン、スリランカ、バングラデシュ、ブータン、ブルネイ、中国（香港）から各1名の美術作家・研究者を招聘することとし、これらの国から推薦者を事前に選び、招聘候補者の推薦を依頼したところ、美術作家18名、研究者・学芸員6名の推薦があった。学識経験者で構成される福岡アジア美術館企画運営会議において、美術作家は、ハディム・アリ（パキスタン）、サラット・クマラシリ（スリランカ）、ペンギラン・ティンバン（ブルネイ）、リンチェン・ウォンディ（ブータン）、ルーク・チン（中国）が、研究者は、シャエラ・シャルミン（バングラデシュ）が選考され、5月からと9月からの2期にわけて各々3ヵ月間招聘した。
また、美術教育交流事業は台湾の台北市立中正高級中学校の美術教師と生徒を招聘し、福岡市立福翔高等学校の美術部生徒と当館のコレクション展を企画した。さらに、シンガポールの聖なる子キリスト修道院学校、ヤンナン高等学校と九州産業大学付属九州高等学校の美術交流活動を支援した。

招聘美術作家
ハディム・アリ（パキスタン） 3
サラット・クマラシリ（スリランカ） 7
ペンギラン・ティンバン（ブルネイ） 11
リンチェン・ウォンディ（ブータン） 15
ルーク・チン（中国） 19
招聘研究者
シャエラ・シャルミン（バングラデシュ） 23
受入支援研究者
ジャン・ジェンフォン（台湾） 25
地域交流イベント
美術教育交流事業 27
実施要綱
福岡アジア美術館美術作家・研究者・学芸員等招聘事業実施要綱 29

招聘美術作家
ハディム・アリ ／ Khadim Ali（パキスタン）
滞在期間：5月9日〜8月7日

[プロフィール]
1978年生まれ。ラホールの国立芸術大学で細密画を学ぶ。
出身地のアフガニスタンを離れ、パキスタンで活動する美術作家。

主な活動

⊙市民共同制作
「アフガニスタンの子どもたちを幸せな気持ちにする平和な絵」を描くワークショップを開催し、参加した福岡の小学生213人が描いた絵と、持参したアフガニスタンの子どもたちが描いた絵にもとづいて、8点の細密画シリーズ『誰もいない台所』を制作した。写真①②③

⊙ワークショップ
「アフガニスタンの子どもたちを幸せな気持ちにする平和な絵」（5/18） 写真④⑤
アフガニスタンの学校生活などを紹介した後に、現地の子どもたちを幸せな気持ちにする絵を思い思いに描いた。
南当仁小学校6年生131人（交流スタジオ）

「アフガニスタンの子どもたちを幸せな気持ちにする平和な絵」（6/8） 写真⑥⑦⑧
柏原小学校3年生82人（柏原小学校）

「額縁をデコレーションしよう」（7/26） 写真⑨
いろいろな小物をつかって、額縁を飾りつけた。
南福岡特別支援学校高等部の生徒42人（南福岡特別支援学校）

⊙講演会（あじび美術講座）
「アフガニスタンのイスラム美術」（7/15） 写真⑩
ティムール朝からアフガン侵攻、タリバン支配に至るアフガニスタンの美術と宗教と政治について語った。
応募者76人（あじびホール）

⊙トーク
「現代文化論」（7/5） 写真⑪
九州大学大学院人文学府「現代文化論」の授業で、自身の作品やアフガニスタンの現状などについて語った。

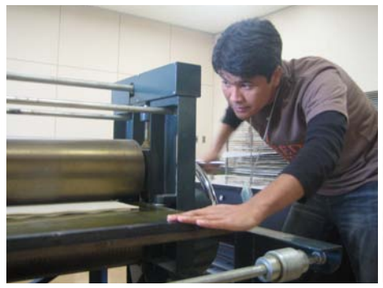
「アーティスト・トーク」（8/5） 写真⑫⑬
「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」の開会式後、福岡で制作した細密画シリーズ『誰もいない台所』について語った。
一般参加者80人（交流ギャラリー）

⊙展覧会
「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」（8/5〜8/20） 写真⑭〜㉑
滞在制作した細密画8点とワークショップで子どもたちが描いた作品を交流ギャラリーで展示した。

「アフガニスタンの子どもたちに見せたい平和な絵」展 写真㉒㉓
福岡の小学生が描いた213枚の絵を持ち帰り、翌年9月にアフガニスタンで展示した。

滞在風景

細密画シリーズ『誰もいない台所』制作風景 ①②③



ワークショップ

「アフガニスタンの子どもたちを幸せな気持ちにする平和な絵」（5/18） ④⑤

「額縁をデコレーションしよう」（7/26） ⑨

「アフガニスタンの子どもたちを幸せな気持ちにする平和な絵」（6/8） ⑥⑦⑧

招聘美術作家
ハディム・アリ ／ Khadim Ali（パキスタン）

講演会（あじび美術講座）

「アフガニスタンのイスラム美術」（7/15）⑩

トーク

「現代文化論」（7/5）⑪

「アーティスト・トーク」（8/5）⑫⑬

展覧会

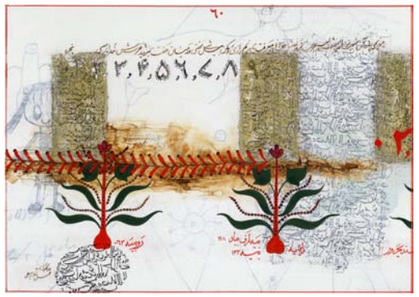
翌年９月アフガニスタンに帰って ㉒

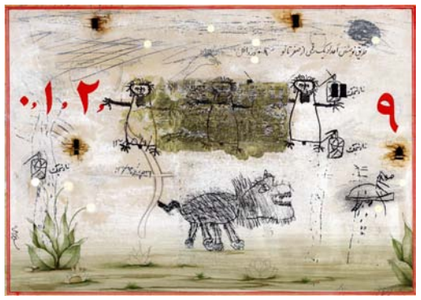
「アフガニスタンの子どもたちに見せたい平和な絵」展 ㉓

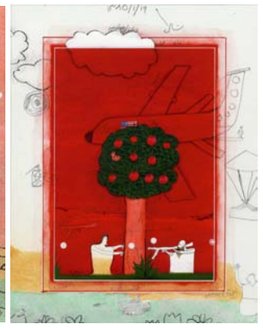
展覧会

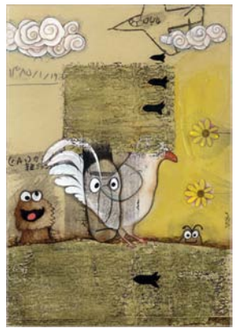
「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」（8/5〜8/20）⑭〜㉑

滞在制作作品『誰もいない台所（Absent Kitchen）』（8点）









招聘美術作家
サラット・クマラシリ ／ J. A. Sarath Kumarasiri（スリランカ）
滞在期間：5月22日〜8月8日

[プロフィール]
1968年生まれ。ケラニア大学美術学部（彫刻）を卒業後、ロンドンの王立美術大学で彫刻と考古学を学ぶ。
スリランカの内戦などをテーマに、テラコッタの立体作品を作ってきた美術作家。

主な活動

⊙市民共同制作
スリランカの内戦で犠牲になった友人たちが愛用したジーンズや靴などを持参し、それをかたどってテラコッタの作品を制作した。また、旧日本陸軍の軍服や広島に投下された原子爆弾で亡くなった人々の遺品、福岡大空襲で焼け残った品々などをモチーフにした作品も制作し、『個人の苦難の記憶』（オブジェ28点、ドローイング32点）を完成させた。作品の一部は、地元の美術作家や美術を学んでいる学生によって制作された。写真①〜⑦

⊙ワークショップ
「今津の風景を作ろう」（6/9） 写真⑧⑨⑩
家や草、海、雲、蝶々などが彫られた手作りのスタンプを用いて、陶板に今津の風景を描写したレリーフを制作。
今津特別支援学校中等部の生徒24人（今津特別支援学校）

「テラコッタのワークショップ」（6/30） 写真⑪⑫⑬
サラットの指導のもと、亡くなった人の思い出の品々を粘土でかたどった。
九州産業大学芸術学部の学生12人（九州産業大学）

⊙トーク
「アーティスト・トーク」（8/5） 写真⑭⑮
「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」の開会式後、福岡で制作した作品『個人の苦難の記憶』について語った。
一般参加者80人（交流ギャラリー）

⊙展覧会
「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」（8/5〜8/20） 写真⑯〜⑳
滞在制作した作品『個人の苦難の記憶』（オブジェ28点、ドローイング32点）とワークショップで子どもたちが作った陶板を、交流ギャラリーで展示した。

滞在風景

『個人の苦難の記憶』制作風景 ①〜⑦

招聘美術作家
サラット・クマラシリ ／ J. A. Sarath Kumarasiri（スリランカ）

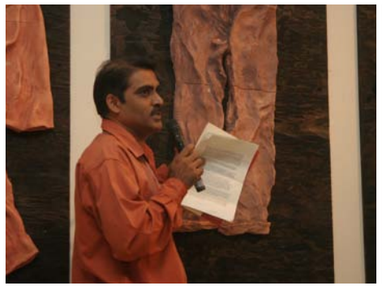
ワークショップ

「今津の風景を作ろう」(6/9) ⑧⑨⑩

「テラコッタのワークショップ」(6/30) ⑪⑫⑬

トーク

「アーティスト・トーク」(8/5) ⑭⑮



展覧会

「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」(8/5〜8/20) ⑯〜⑳

滞在制作作品『個人の苦難の記憶―組織的な暴力に直面した人々の記念碑
(“Memories of individual’s suffering” as memorials in the face of organized violence)』
(オブジェ28点、ドローイング32点)

招聘美術作家

ペンギラン・ティンバン ／ PG Timbang PG Hj Tuah（ブルネイ）

滞在期間：9月10日〜12月11日

[プロフィール]
1959年生まれ。独学で美術を学ぶ。
ブルネイの文化や生活をテーマにして、様々な素材や技法を駆使した絵画や、
廃材を再利用したコラージュ作品などを制作する美術作家。

主な活動

市民共同制作

日本製の壁紙を幾重にも重ね合わせ、その表面を巧妙に加工した独自の手法によって、厳しい現実を生きてきたパディアン（水上マーケットで野菜や日用品を売る人）の女性たちの力強い姿と、ブルネイの消えゆく伝統文化や生活様式を伝える作品9点を制作した。写真①〜⑧

ワークショップ

「夢のパディアンを描く」（6/13） 写真⑨⑩⑪⑫

児童たちとともに巨大な紙に夢のパディアンやブルネイの水上集落などを描いた。
柏原小学校6年生102人（柏原小学校）

トーク

「アーティスト・トーク」（8/5） 写真⑬⑭

「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」の開会式後、福岡で制作した作品について語った。
一般参加者80人（交流ギャラリー）

展覧会

「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」（8/5〜8/20） 写真⑮〜⑰

滞在制作した作品9点とワークショップで子どもたちが描いた絵画を交流ギャラリーで展示した。

滞在風景

『夢のパディアンを描く』制作風景 ①〜⑧

招聘美術作家
ペンギラン・ティンバン ／ PG Timbang PG Hj Tuah（ブルネイ）

ワークショップ

「夢のパディアンを描く」(6/13) ⑨⑩⑪⑫

トーク

「アーティスト・トーク」(8/5) ⑬⑭

展覧会

「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」(8/5〜8/20) ⑮〜㉓

滞在制作作品（9点）

『起きろ（Wake Up）』

『終わりのない苦闘（Endless Struggle）』

招聘美術作家
リンチェン・ウォンディ ／ Rinchen Wangdi（ブータン）
滞在期間：9月6日〜12月6日

[プロフィール]
1979年生まれ。ティンプーの言語文化大学でブータンの伝統美術を学ぶ。
ティンプーのアーティスト・グループ「VAST」で活動する美術作家。

主な活動

市民共同制作
日本とブータンで見た風景や人物、あるいは自らの記憶や空想にもとづいて、3点の大きな絵画を制作した。写真①②

公開制作
「タンカの公開制作」（10/13） 写真③
九州産業大学付属九州高等学校デザイン科の生徒15人（彫刻ラウンジ）

「タンカの公開制作」（10/18〜10/21） 写真④⑤
（福岡市役所1階情報プラザ）

ワークショップ
「アジアン・ミックス」（11/3） 写真⑥⑦⑧
「アートピクニック2006」（主催：子ども文化コミュニティ）のプログラムとして、熊本在住の美術作家・岡山直之氏と共同で実施。参加した親子は、空を思わす大きな布にお互いの姿とブータンの雲を描いた。
応募者（親子）20人（彫刻ラウンジ）

「ブータンの伝統的な仏画『タンカ』を描こう！」（11/7〜11/12：6日間） 写真⑨
ブータンの伝統的な仏画の描き方、キャンバスの作り方などを6日間の連続講座で教えた。
応募者19人（交流スタジオ）

「仮面の版画をつくろう」（11/17〜11/19） 写真⑩⑪
「オープン・スタジオ」のワークショップとして、ブータンの仏教説話に登場するグルリンポチェなどの仮面をモチーフに、木版画を制作した。
一般参加者95人（彫刻ラウンジ）

「スクール・プログラム（ブータンとの交流）」（12/4〜） 写真⑫⑬⑭
福岡の中学生と一緒に巨大な風景画を描いた後、それをブータンに持ち帰り、チャンハ中学校の生徒たちと完成させた。また、翌年の9月20日には、両国の生徒たちがインターネットで交流し、一緒に手がけた風景画について、お互いに感想や意見を交わした。
大野城市立御陵中学校1年生100人（大野城中学校）

トーク
「アーティスト・トーク」（12/5） 写真⑮⑯
「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート2」の開会式後、福岡で制作した作品について語った。
一般参加者75人（彫刻ラウンジほか）

展覧会
「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート2」（12/5〜12/24） 写真⑰〜⑳
滞在制作した3点の絵画と、ワークショップの参加者たちが描いたタンカと巨大な作品を、彫刻ラウンジに展示した。

滞在風景

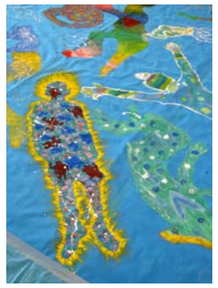
制作風景 ①②

公開制作

「タンカの公開制作」（10/13）③　「タンカの公開制作」（10/18〜10/21）④⑤

ワークショップ

「アジアン・ミックス」（11/3）⑥⑦⑧



招聘美術作家
リンチェン・ウォンディ ／ Rinchen Wangdi（ブータン）

ワークショップ

「ブータンの伝統的な仏画『タンカ』を描こう！」
（11/7〜11/12：6日間）⑨

「仮面の版画をつくろう」（11/17〜11/19）⑩⑪

「スクール・プログラム（ブータンとの交流）」（12/4）⑫⑬⑭

トーク

「アーティスト・トーク」（12/5）⑮⑯

展覧会

「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」（12/5〜12/24）⑰〜⑳

滞在制作作品（3点）

『放生会（Hojoya Festival）』

『母（Mother）』

『最初の捧げ物（First Offering）』

招聘美術作家
ルーク・チン ／ Ching Chin Wai（中国）
滞在期間：9月5日〜12月4日

[プロフィール]
1972年生まれ。香港中文大学で美術を学んだ後、同大学院で修士号を取得。
次第に使われなくなった広東語を非中国語圏の人たちに教える作品「広東語なんて簡単」のように、
言語を用いて異文化間の関係を探るプロジェクトをおこなっている。

主な活動

⊙市民共同制作
400人以上との交流のなかから、ビデオ、写真、オブジェなどで構成された作品「ランゲージセンター」を制作し、ミュージアム・ショップや彫刻ラウンジ、受付などの館内各所に展示した。
写真①②

⊙ワークショップ
「広東語なんて簡単 第1章：I LOVE YOU」（9/15） 写真③
香港ではあまり使われなくなった広東語で愛しているを意味する「オゥオイレイ（我愛你）」の発音を教え、消えゆく文化について考えた。
有田小学校3年生114人（あじびホール）

「香港民俗芸術シリーズ：ゴキブリ」（9/16） 写真④⑤
両面テープで実物そっくりのゴキブリをつくり、美とは何かを問いかけた。
美術館ボランティア18人（交流スタジオ）

「香港民俗芸術シリーズ：ゴキブリ」（9/24） 写真⑥⑦
一般参加者35人（九州国立博物館「ボランティアメッセ2006 IN 九博」）

「香港民俗芸術シリーズ：ゴキブリ」（10/13） 写真⑧
九州産業大学付属九州高等学校デザイン科の生徒30人（交流スタジオ）

「香港民俗芸術シリーズ：ゴキブリ」「ランゲージセンター：家族」（11/17〜11/19）
写真⑨⑩⑪
オープン・スタジオで2つのワークショップをおこなった。
一般参加者104人（彫刻ラウンジ）

「香港民俗芸術シリーズ：ゴキブリ」（11/26） 写真⑫⑬
両面テープで作ったゴキブリを制作者自らの手によって、美術館8階のいたるところに展示した。
一般参加者55人（8階ロビー）

⊙トーク
「アーティスト・トーク」（12/5） 写真⑭
「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート2」の開会式後、福岡で制作した作品について語った。
一般参加者75人（彫刻ラウンジほか）

㉖

⊙展覧会
「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート2」（12/5〜12/24） 写真⑮〜
滞在制作した13点の作品から構成される「ランゲージ・センター」を、館内のいたるところに展示。

制作風景

制作風景 ①②

ワークショップ

「広東語なんて簡単 第1章：I LOVE YOU」（9/15） ③

「香港民俗芸術シリーズ：ゴキブリ」（9/16） ④⑤

「香港民俗芸術シリーズ：ゴキブリ」（9/24） ⑥⑦

「香港民俗芸術シリーズ：ゴキブリ」（9/24） ⑧

招聘美術作家
ルーク・チン ／ Ching Chin Wai（中国）

ワークショップ

「香港民俗芸術シリーズ：ゴキブリ」「ランゲージセンター：家族」（11/17〜11/19）⑨⑩⑪

「香港民俗芸術シリーズ：ゴキブリ」（11/26）⑫⑬

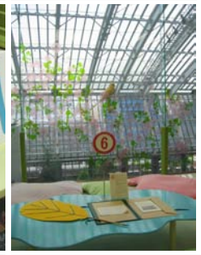
トーク

「アーティスト・トーク」（12/5）⑭

展覧会

「第7回アーティスト・イン・レジデンスの成果展パート1」（12/5〜12/24）⑮〜㉖

滞在制作作品『ランゲージセンター（Language Center）』（13点）



招聘研究者
シャエラ・シャルミン ／ Shaela Sharmin（バングラデシュ）
滞在期間：9月4日〜12月5日

[プロフィール]
1972年生まれ。チッタゴン大学で絵画を学ぶ。
同大学美術学部の准教授として美術史を教えている研究者。

主な活動

⊙調査・研究

以下の美術関係機関を訪問して、美術関係者にインタビューをおこない、日本における福岡の美術の独自性について調査・研究した。

美術館
福岡市美術館（山口洋三学芸員）、福岡県立美術館（川浪千鶴学芸員）、
北九州市立美術館、石橋美術館

大学
九州大学美学美術史研究室、九州産業大学芸術学部、福岡教育大学（阿部守教授）写真①

ギャラリー
共同アトリエ・３号倉庫、アートバンクWALD（森悠二さん）、ギャラリーおいし、
ギャラリーとわーる、三菱地所アルティアム（門脇さや子さん、池澤廣和さん）、
MOMAコンテポラリー（馬場梨香さん）、ギャラリーアートリエ、
アートスペース・テトラ（遠藤水城さん） 写真② 、アートスペース貘（小田律子さん）、
アートスペース千代福（新庄良博さん） 写真③ 、旧百三十銀行ギャラリー、
ギャラリーSOAP（宮川敬一さん） 写真④ 、IAF SHOP*（佐藤恵一さん、耘野善之さん）など

美術作家
藤浩志さん、江上計太さん 写真⑤

調査旅行（10/24〜11/1）
東京、横浜、京都、大阪、神戸にある美術館やギャラリーを調査した。

研究報告（12/3） 写真⑥
日本での調査結果について、美術関係者とラウンド・テーブルをおこなった。
関係者26人（会議室）
（シャエラ・シャルミンにより提出された活動報告書は、福岡アジア美術館のホームページ[http://faam.city.fukuoka.jp/residence/rdc_index.html]に掲載しています。）

⊙講演会（あじび美術講座）

「バングラデシュの美術〜ダッカとチッタゴンを中心に〜」（11/11） 写真⑦⑧
応募者68人（あじびホール）

⊙ワークショップ

「バングラデシュの紙細工を作ろう」（11/17） 写真⑨⑩
東若久小学校3年生56人（彫刻ラウンジ）

⊙イベント

「バングラデシュの結婚式」（11/17〜11/19） 写真⑪⑫⑬
結婚式会場の公開制作から結婚式の実演、シャエラによる解説と、バングラデシュの結婚式を本格的に紹介した。
一般参加者118人（彫刻ラウンジ）

調査・研究

福岡教育大学 ①

アートスペース・テトラ ②

アートスペース千代福 ③

ギャラリーSOAP ④

江上計太さん ⑤

研究報告（12/3） ⑥

講演会

「バングラデシュの美術〜ダッカとチッタゴンを中心に〜」（11/11） ⑦⑧

招聘研究者
シャエラ・シャルミン ／ Shaela Sharmin（バングラデシュ）

ワークショップ

「バングラデシュの紙細工を作ろう」(11/17) 写真⑨⑩

イベント

「バングラデシュの結婚式」(11/17〜11/19) 写真⑪⑫⑬

受入支援研究者
ジャン・ジェンフォン ／ Chang Chengfeng（台湾）
滞在期間：3月1日〜6月15日、7月18日〜8月6日

[プロフィール]
1963年生まれ。国立台北芸術大学芸術行政及び管理大学院に在籍。
「アジアの現代美術と展覧会企画のメカニズムの発展：福岡アジア美術館における福岡トリエンナーレを事例として」の調査・研究のために当館で調査・研究した。

主な活動

調査・研究
当館の美術館運営や「福岡トリエンナーレ」について調査・研究した。

その他
「日本時代の台湾絵画」展の開催、台湾市立中正高級中学校と福岡市立福翔高等学校との美術教育交流事業などに協力した。写真①②

美術教育交流事業

美術教育交流事業 ①②

美術教育交流事業
聖なる子キリスト修道院学校 ／ ナンヤン高等学校 ／ 九州産業大学付属九州高等学校

主な活動

シンガポールの聖なる子キリスト修道院学校とナンヤン高等学校、福岡の九州産業大学付属九州高等学校の美術交流活動を支援し、3校の生徒たちが「アジアン・キッズ」展のプロモーション・ビデオを製作するワークショップをおこなった。

期　　間　　5月26日（金）～6月3日（土）
参 加 校　　聖なる子キリスト修道院学校（生徒8人、教師1人）
　　ナンヤン高等学校（生徒8人、教師3人）
　　九州産業大学付属九州高等学校（生徒11人、教師2人）

レクチャー（5/26） 写真①
担当学芸員から「アジアン・キッズ」展の内容や学芸員の仕事についてレクチャーを受けた後、3校混成の5グループに分かれて、プロモーション・ビデオのコンセプトや使用する作品について話し合った。

展示作品の撮影（5/29～5/30） 写真②
美術館の収蔵庫で作品の保存・管理についてのレクチャーを受け、プロモーション・ビデオに使用する作品を実際に撮影。内容をさらに詰めた。

プロモーション・ビデオの製作（5/31～6/2）
場所を福岡工業大学短期大学部に移して、パソコンを使ったプロモーション・ビデオの製作に入る。各グループで話し合ったコンセプトに従って、各人が30秒程度のプロモーション・ビデオを製作した。

発表（6/3） 写真③④
美術館スタッフや滞在アーティストなどを前に、グループごとにプロモーション・ビデオのコンセプトと各人の映像作品を発表。会場にいる全員の投票で最優秀グループと優秀作品3点が選ばれた。

美術教育交流事業

レクチャー（5/26）①

展示作品の撮影（5/29～5/30）②

発表（6/3）③④

美術教育交流事業
台北市立中正高級中学校 ／ 福岡市立福翔高等学校

主な活動

台湾の台北市立中正高級中学校の生徒と美術教師を9日間招聘し、福岡市立福翔高等学校美術部の生徒と、当館のコレクション展「アジアン・キッズ」（8月31日～11月7日、アジアギャラリーBで開催）を企画した。

期　　間　　7月30日（日）～8月5日（土）
参 加 校　　台北市立中正高級中学校（生徒6人、教師2人）
　　福岡市立福翔高等学校（生徒12人、教師1人）

レクチャーと収蔵庫の見学（7/30） 写真①
担当学芸員から「アジアン・キッズ」展の内容や学芸員の仕事についてレクチャーを受けた後、収蔵庫で展示候補作品をじっくりと鑑賞した。

南阿蘇でのスケッチ（7/31） 写真②
3人の滞在アーティストとともに阿蘇を訪れ、雄大な風景をスケッチした。

展示プランの制作（8/1～8/4） 写真③
両校の生徒が3つの混成グループに分かれて、それぞれの展示プランを作成。95点の候補作品から展示する作品を選び、展覧会のサブテーマを決め、展示プランをまとめて1/30の展示模型を製作した。

展示プランの発表（8/5） 写真④
グループごとに展示プランやコンセプトを発表。会場にいる全員の投票で、最優秀グループを選考した。
最優秀グループの展示プランは、担当学芸員の手直しが入った後、当館のコレクション展「アジアン・キッズ」（8月31日～11月7日）として実現した。

美術教育交流事業

収蔵庫の見学（7/30）①

南阿蘇でのスケッチ（7/31）②

展示プランの制作（8/1～8/4）③

展示プランの発表（8/5）④

福岡アジア美術館　美術作家・研究者・学芸員等招聘事業実施要綱、要領

美術作家・研究者・学芸員等招聘事業実施要綱

1　総則
福岡アジア美術館（以下「当館」という。）における美術作家・研究者・学芸員等招聘事業を実施するため、この要綱を定める。

2　目的
アジアの美術作家・研究者・学芸員等を当館に一定期間招聘し、市民との交流事業などを推進することにより、市民のアジア美術に対する理解・関心を深め、地域文化の質的向上に努めるとともに、アジア美術の交流拠点を目指す。

3　事業内容
（1）招聘予定者は、「福岡アジア美術館企画運営会議」で選考する。
（2）当館は、被招聘者専用滞在施設もしくは福岡市内の宿泊施設を提供し、当館の交流スタジオおよび招待者用研究室等においての制作活動及び研究活動等を支援する。
（3）当館と被招聘者は、共同して滞在期間中に被招聘者による市民との美術交流事業を企画、実施する。
（4）被招聘美術作家は、制作活動の成果として、滞在の最後に当館と共同して展覧会を開催する。

4　実施条件
この要綱に定めるもののほか、事業の実施について必要な事項は別途定める。

附則
この要綱は、平成１５年６月１日から施行する。

美術作家招聘要領

1　招聘の目的
アジアの美術作家を福岡アジア美術館（以下「当館」という。）に一定期間招聘することで、市民がより積極的に美術作品に親しむ機会を提供し、市民のアジア美術への関心や制作活動への理解を深める。
また、招聘者相互の交流、招聘者と地元美術界との交流を促進することで、アジア各国の美術の現状を理解し合うとともに、招聘者の新たな表現活動への模索の場となることを目指す。

2　主催
福岡アジア美術館

3　実施形態
（1）招聘対象者
招聘者は次の要件を満たすものとする。
ア　現在、活動実績が認められている美術作家もしくは将来の活躍を期待される美術作家で、当館が規定するアジアの国籍を有する個人、及び他国籍アジア系の個人（ただし、日本人および在日外国人は除く）。
イ　日本での日常生活が可能な程度の日本語、もしくは英語が話せる者。
ウ　日本での生活に支障のない健康体である者。
（2）招聘人数
４名
（3）招聘期間
原則として3カ月とする。
（4）創作活動場所および住居
当館が指定する市内の宿泊施設に滞在し、当館内の交流スタジオ等で創作活動を行う。
（5）招聘の条件
制作活動にあたっては、以下の要件を課す。
ア　招聘者は、あらかじめ詳細で具体的な制作プランを当館に提出する。
イ　制作過程は、原則として公開とする。
ウ　滞在制作中に市民参加が可能な何らかの美術交流イベントを実施する。
（例）市民参加型作品（鑑賞者が作品に働きかけをすることで成立する作品）の制作と発表、公開制作イベント、実技講座、講演会など
エ　滞在制作の最後に、当館において展示発表を行う。
オ　制作した作品およびその著作権は、作家に帰属する。
（6）主催者の負担
主催者は事業推進にあたり、以下の経費を予算の範囲内で負担する。
ア　往復渡航費
イ　生活費
ウ　制作活動にかかる経費
エ　展示及び交流事業にかかる経費
オ　海外旅行傷害保険の加入料
（7）その他の助成
ア　制作活動場所
イ　宿泊施設
ウ　制作活動に関するアドバイス
エ　滞在期間中の語学（日本語・英語）講座への入講案内
オ　福岡滞在にあたっての生活ガイダンス

研究者・学芸員等招聘要領

1　招聘の目的
アジアの近現代美術の研究者もしくは学芸員等を福岡アジア美術館（以下「当館」という。）に一定期間招聘し、研究・企画を推進することにより、世界的なアジア美術研究の発信地としての拠点づくりを目指すとともに、アジア美術の展覧会についての新たな展開を共に模索する。
また、市民との交流活動を通じてアジア美術についての理解・関心を深め、地域文化の質的向上を図る。

2　主催者
福岡アジア美術館

3　実施形態
（1）招聘対象者
招聘者は次の要件を満たす者とする。
ア　研究者：アジアの近現代美術研究における実績があり、将来、研究者としての活躍を期待される個人で、国籍は問わない。
イ　学芸員：美術館等に勤務し、アジアの近現代美術展企画の実績がある学芸員、及び同様の実績があり、将来の活躍が期待される個人で、国籍は問わない。
ウ　日本での日常生活が可能な程度の日本語、もしくは英語が話せる者。
エ　日本での生活に支障のない健康体である者。
（2）招聘人数
２名
（3）招聘期間
原則として3カ月とする。
（4）研究・企画場所および住居
当館が指定する市内の宿泊施設に滞在し、当館内の招待者用研究室等においてアジア近現代美術についての研究を行う。
（5）招聘の条件
研究テーマや企画内容などの詳細な活動計画をあらかじめ当館に提出する。
（6）主催者の負担
主催者は、事業推進にあたり、以下の経費を予算の範囲内で負担する。
ア　往復渡航費
イ　生活費
ウ　研究・企画等に要する経費
エ　旅行傷害保険の加入料
（7）その他の助成
ア　研究・企画場所
イ　宿泊施設
ウ　滞在期間中の語学（日本語・英語）講座への入講案内
エ　福岡滞在にあたっての生活ガイダンス